編集後記

放送に求められる機能をめぐっては，今なお，後藤新平が100年前に述べた「文化の機会均等」「家庭生活の革新」「教育の社会化」「経済機能の敏活」の4つに言及されることがあります。確かにこれらの機能は，技術がどう変化しようと，放送メディアにとって不可欠なものと言えるでしょう。新たな技術によって，こうした機能がどのような方向に発展していくのか，今回の特集によって見えてくればと考えています。

（村上 聖一）

活字メディアではあまりないと思いますが，放送メディアの仕事についたとき，最新の放送技術を知ることが大事だと強く言われ，今も心がけています。どういう撮影や編集が可能かという「作り手」としてだけでなく，世界各地あるいは宇宙からの中継映像をどう届けるかという「届け手」，そして家庭や学校でどのように視聴しているかという「受け手」のそれぞれに関わる放送技術の歴史をふかんすることで，ほかのメディアと異なる放送の特性が見える特集になったと思います。

（宇治橋 祐之）

少し気が早いかもしれませんが，この第17号からタイトルに「放送100年」と掲げています。100年を機にさまざまな角度から改めて「放送」について考えていければと思っています。今号は，諸先輩による『放送学研究』第27号（1975）の「放送技術文化論」以来，久しぶりの放送技術の特集となりました。今回の特集が，これからの技術と放送のあり方を考える一助になればと思っています。

（東山 一郎）

「放送100年」とは，より良い未来を夢見て試行錯誤を重ねてきた歴史だと，今号を編集し改めて認識させられました。現在のメディア環境や暮らしを築いた先人達には感謝の言葉しかありません。そして，そのことを執筆した方々をはじめ，編集，レイアウト，校正等の担当の皆さんにも感謝申し上げます。「放送100年」の特集は，これからも刊行する予定です。次の100年も素晴らしい未来にするために，研究を続けます。

（柳 憲一郎）

◆ 編集担当

村上　聖一	NHK 放送文化研究所	メディア研究部 チーフ・リード
宇治橋祐之	同	メディア研究部 主任研究員
東山　一郎	同	メディア研究部 主任研究員
柳　憲一郎	同	メディア研究部 主任研究員

◆ 編集協力

神田　菊文	NHK 放送技術研究所	副所長
倉掛　卓也	同	伝送システム研究部 エキスパート
相原　　聡	同	研究企画部 副部長

本書制作スタッフ

工藤知安（装丁）　㈱風讃社　島内晴美（リム企画）　フェリックス　福田 稔（座談会撮影）

放送メディア研究 17

放送100年　技術の発達と放送メディア

2024年3月10日　第1刷発行

編者　NHK放送文化研究所
©2024 NHK
〒105-6216 東京都港区愛宕2-5-1
愛宕MORIタワー16F
電話 0570-066-066（NHKふれあいセンター（放送））
ホームページ https://www.nhk.or.jp/bunken/

発行者　松本浩司

発行所　NHK出版
〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町10-3
電話 0570-009-321（問い合わせ）
0570-000-321（注文）
ホームページ https://www.nhk-book.co.jp

印刷　啓文堂／大熊整美堂
製本　二葉製本

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。
定価は表紙に表示してあります。
本書の無断複写（コピー，スキャン，デジタル化など）は，
著作権法上の例外を除き，著作権侵害となります。

Printed in Japan
ISBN978-4-14-007283-7 C3336